

## 令和3年7月豪雨災害からの 復興を目指して

■ 石 飛 厚 志\* ■

### ○雲南市の概要

雲南市は島根県の東部に位置し、南部は広島県に接しています。

市の南部、広島県との県境は毛無山（標高1,062m）を頂点に中国山地に至り、北部は出雲平野に続いていることから、標高差が大きい地形となっています。市内には、一級河川斐伊川本流と支流の赤川、三刀屋川、久野川、その支流である阿用川、吉田川などが流れており、地勢的な連続性があり、



水系による一体性のある地域といえます（図－1）。

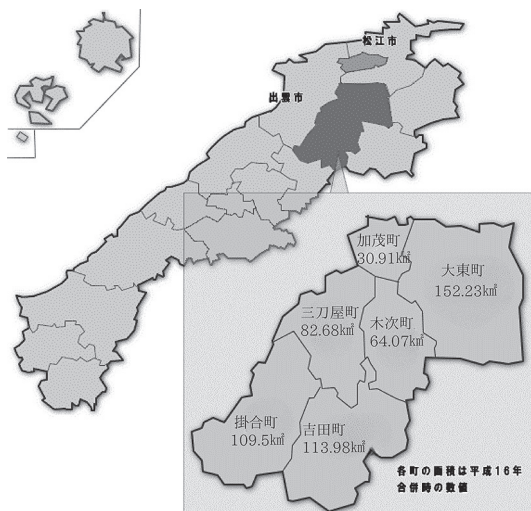
また、県都松江市と出雲市の南に隣接し、通勤や通学、商圈など社会的・経済的に大きなつながりがあります。そして、中山間地域ならではの豊かな自然環境と市民生活が融合したまちづくりや、地域資源を生かした温泉施設・観光施設が整備され、水と緑が醸し出す穏やかな印象をもった美しい地形です。

雲南市の地質は特殊土壤地帯に指定され、中国・四国地方に多く分布している花崗岩風化土の土壤は、台風の襲来や近年の短時間豪雨が発生すると崩壊しやすい性質を持っています。

雲南市の地質は特殊土壤地帯に指定され、中国・四国地方に多く分布している花崗岩風化土の土壤は、台風の襲来や近年の短時間豪雨が発生すると崩壊しやすい性質を持っています。

### ○発災直後の様子

令和3年7月12日午前8時55分、土砂災害警戒情報（警戒レベル4相当）が発表されました。線状降水帯の影響により時間雨量が100ミリを超える地点もある中で、記録的短時間大雨情報が発表され、避難情報の警戒レベル5「緊急安全確保」を発令する事態となり、多くの市民が避難を余儀なくされました。その豪雨は約2時間降り続き、昼12頃には一転して晴天の猛暑に変わっていました。その間、道路のがけ崩れによる通行止め、河川の氾濫による冠水、家の裏山の崩壊など、市内各所からの被害報告で庁舎内の電話回線はパン



図－1 雲南市概要図

\* Atsushi Ishitobi 島根県雲南市長

ク状態になりました。

市は直ちに災害調査体制を組み、道路・河川、家裏崩壊、孤立住居、水道断水の各調査班を現地へ向かわせました。また、各地域の公共施設に避難所を開設し、市職員総動員での災害対応が始まりました。当時はコロナ禍が深刻化してきた時期でもあり、避難所運営や被災地訪問は、感染防止対策にも留意しながら緊急事態に対応してきました。

一方ではライフラインの応急復旧も同時進行させ、道路啓開や水道断水の復旧作業が休み無く実施されました。住居の孤立状態の解消や、災害ゴミの集積場所の開設など、市内建設業者の皆さん

の全面的なご協力により、短期間の内に一定のライフラインを復旧する事ができました。

### ○令和3年災の主な被害概要

市内の広範囲において甚大な被害が発生しました（図－2、写真－1、2）。被害額は公共土木施設災害が約51億円、農地農業用施設・林道災害が約117億円（令和3年11月末現在）であり、雲南市発足後最大であった平成18年（2006年）の災害の6倍を超える未曾有の規模となりました。なお、復旧費は公共土木施設災害が約29億円、農地農業用施設・林道災害が約28億円、林地崩壊防止事業を含む災害関連工事が約8億円（令和6年9

#### 被害概要（8月6日15時00分現在）

**人的被害** 0件

**住家被害** 全壊：2棟、半壊：13棟、一部破損：133棟、被害小：19棟、床上浸水：11棟、床下浸水：82棟

**非住家被害** 全壊：9棟、半壊：3棟、一部破損：21棟、被害小：9棟、床上浸水：10棟、床下浸水：25棟

**道路等被害** ・道路損壊：路肩崩壊（171路線 347カ所）、のり面崩壊（市道：136路線 224カ所、農道：141件）、冠水：7路線、その他：59路線 84カ所  
・護岸崩壊：95河川 350カ所、その他：33河川 44カ所  
・農地・農業用施設：1,569件  
・林地崩壊：340件、地すべり：111件

図－2 令和3年災害の主な被害概要（「市報うんなん」2021年9月号より抜粋）



写真－1 河川の氾濫状況 三刀屋川（左）、飯石川（右）



写真－2 萱野川が氾濫し家屋が倒壊（左）、飯石川では河川護岸や道路が崩壊した（右）

月末現在）の見込みであり、完全な復興には令和7年度末までかかる見通しです。

ただ、これほどの災害の中で人的な被害が全くなかったことは、本当に不幸中の幸いであったと思います。

### ○災害復興への取り組み

市は「災害復興調整室（総務部）」「公共災害復興チーム（建設部）」「農林災害復興チーム（農林振興部）」を設置し、災害復興に向け本格的な調査・対策を開始しました。なお、この調査には国や県からの支援をいただき、「TEC-FORCE／テックフォース（国土交通省）」「MAFF-SAT／マフサット（農林水産省）」、鳥根県や土地改良事業団体連合会も加わった大規模な調査になりました。そして、年内に国の災害査定を終えるため、測量設計から災害査定設計書の作成業務が急増しました。特に農地農業用施設災害は膨大な箇所数があり、大規模災害査定方針を適用して年内の査定を完了させました。

令和5年度からは各災害復興チームを建設部に集約し、新たに「災害復興チーム」として令和3年以降発生した災害復旧への体制を構築しました。また、チャットを活用した職員間の情報共有の向上や、市のドローンチーム「うなんストークス」を発足させ、被害状況に応じた柔軟な調査が可能になり、国や県への被害報告が短期間で集約できるようになりました。

### ○地元説明会及び現地説明会の実施

市内各所から4,000件を超す被害報告があり、地元説明会を開催して報告箇所に対する回答を行いました。国の補助事業で復旧する箇所、市の単独事業で復旧する箇所など復旧方針を丁寧に説明しました。また、要望があれば現地で立会し、できる限り被災地の状況に寄り添うよう努めました。

被災された農家の皆さんには水稻耕作の見通しが最も重要な問題であり、復旧には数年を要する旨を説明すると落胆されることもありましたが、被災した農地には維持管理に対する支援策を施しながら復旧をお待ちいただき、可能な限り耕作を継続されるよう説明しました。

### ○災害関連地域防災がけ崩れ対策事業

市内で特に雨量の多かった三刀屋町上ノ段地区で、家屋前面の敷地が崩壊し、がけ下の別の家屋を巻き込む大規模な災害が発生しました（写真－3）。

復旧する手立てに困っていたところ、鳥根県を通じ国から激甚災害の際に活用できる「災害関連地域防災がけ崩れ対策事業」を紹介いただき、採択基準に合致することから早速取り組むこととしました。

本事業の採択基準は以下のとおりです。

○市の防災計画に危険箇所として記載され、または記載されることが確実であるがけ地で発生したもの

- がけ地の高さが5 m以上であること
- 人家2戸以上に倒壊等著しい被害を及ぼすと認められるもの
- 1箇所の事業費が600万円以上であること

当市としては初めて実施する事業であり、鳥根県でも十数年ぶりに実施するとのことで、県砂防課の担当者と手探りながらも、なんとか短期間のうちに採択申請を取りまとめました。

現場概要図（図－3）に示した家屋②は、建物に直接被害はなかったものの、前面の敷地がほとんど崩落しており、そのまま生活を続けるには大きく支障がある状況でした。また家屋①は、家屋②の敷地崩落により進入路が喪失した状況で、かつ被災により建物基礎が露出するなど家屋に被害が発生しており、そのままでは家屋倒壊の危険性が高い状態でした。

復旧計画の検討にあたっては、がけ地の復旧はもとより、復旧後にも被災家屋の住民が被災前と同様に、安心して生活が続けられる計画が求めら

れました。

がけ地の高さが6.7mあり、また上下に家屋があることから、仮設を含む施工計画の立案や、実際の工事の際には細心の注意を払う必要がありました。発災から1年以上経ってしまいましたが、被災翌年度の令和5年2月に無事竣工することができ、被災家屋にお住まいの方から大変感謝されました。

## ○今後の課題と対策

市民の生命財産、安心安全、日々の暮らしを守る上で、あらゆる災害対応の基本となるのが、行政と市民双方に十分な事前の調整が行われていることと、道路通行止め情報等の分かりやすい伝達方法が必要であることを強く感じました。道路情報は国、県、市道においては管理者の違いはありますが、利用する市民の立場に立って、安全な道路、危険な道路の状況を分かりやすく掲示し、見える状況にすることが重要であると考えます。市民からの情報提供の活用方法も含め、今後の災害対策の要として対策を検討いたします。

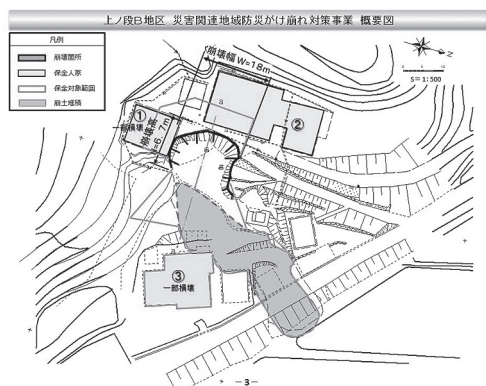
また、中山間地に集落が点在する雲南市においては、ハード事業に加えてソフト事業としての自主防災への取り組みも重要であると考えます。市内各地の地域自主組織を通じて危険箇所の周知徹底を図り、自らを守るためには「日頃からの備え」と「早期の自主避難」が重要であることを市民の皆様に変更して認識いただくよう、学習会の支援や講演会の開催など積極的に進めていく考えであります。

## ○終わりに

令和3年災害は発災から5年目を迎え、現在市全体の復旧率は約80パーセントまで進み、令和7年度末には復旧完了となる見通しになりました。これまで鳥根県をはじめ、関係機関の皆様には多大なご支援をいただきましたこと深く感謝申し上げます。復旧完了にはもう暫くかかりますが、今後ともご指導ご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。



写真－3 被災直後の状況



図－3 現場概要図